

令和6年第4回定例会行政報告

本日ここに、令和6年第4回定例会を招集しましたところ、議員各位にはご多用な折、出席いただきまして、御礼申し上げます。

只今、議長のお許しをいただきまして、議会に先立ち、行政報告として、直近の主要な重点事業や政策課題の進捗状況など、行政活動の一端を申し上げ、議会の皆様始め、町民の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

令和6年度も順調に取り組みを進めているところですが、今回の行政報告では、前回の行政報告以降、すなわち令和6年6月議会以降の本町の主な動きについて、特に、

1. 戸沢村豪雨災害への支援
 2. 町内を襲った震度5弱の揺れへの対応
 3. 台風10号に伴う長雨災害への災害対応及び復旧対応
 4. 令和7年度予算に係る県要望
 5. あらたな生涯学習施設とデジタル郷土資料館
 6. 砂口配水池、給食センターの耐震化(含道路橋りょう)
 7. 宿泊型産後ケアについて
 8. 美・緑なかいフェスティバル及びあかりの祭典について
- をご報告します。

本町との長期のかかわりを持つ山形県戸沢村が、7月末の豪雨による最上川の越水に伴い、集落ごと冠水するなど、「平成30年災」と記録された降雨災害を超える被害を受けました。発災直後に予定されていた戸沢村中井町青少年ふれあい交流は、村の英断もあり、本町で精一杯のお迎えをし、無事開催されたほか、災害時相互応援協定に基づき、多様な支援を行いました。町民の思いを受け、町が呼びかけた災害義援金には、8月末までで23万8千円強が寄せられ、ふるさと納税制度を活用し、中井町が事務等を代行する「代理寄付」には11月末までに15万円余が寄せられています。そのほか、災害ボランティアや義援金寄付などが町民有志によって行われています。戸沢村長らからも感謝が寄せられていますが、集落ごとの集団移転というハードルの高い事業に向けて動き出した戸沢村と引き続き連携を図ってまいります。

戸沢村への対応中でもあった8月9日夜、県西部を震源とするプレート境界型の地震が発生し、本町などが最大震度となる、震度 5 弱を観測し、3・11以来の揺れに見舞われました。怪我等人身に関わる被害はありませんでしたが、石像が倒れる、屋根瓦が落ちる等の被害がありました。折しもその前日発表された南海トラフ地震臨時情

報(巨大地震注意)への対応とも重なり、改めて災害対応強化へと注力してまいります。

その試金石ともなったのが、台風10号への災害対応でした。8月末から9月にかけて、日本列島を迷走した台風10号に伴い、中井を含む、大磯・二宮、秦野・平塚のエリアを中心に、東に張り出した高気圧の縁と、台風からの空気が流れ込む場となり、8月29日から、土砂災害警戒情報が解除される9月1日夜まで、500ミリを超える雨が降りました。

災害援助法の適用申請、都合4日間の設置となった災害対策本部や避難所運営と、異例続きの災害であり、避難所の暑さ対策なども緊急に取り組む必要があります。また、農地 63 か所、道路 34 か所の被害があり、降雨をぬっての復旧対応を重ねました。農地復旧に対し、国庫補助事業を活用した復旧を図るとともに、町独自の農地等復旧事業補助金を創設するなど、県からの協力も受けながら、一歩も二歩も対応を拡充することにつなげました。

例年7月から8月にかけて、県議会並びに県に対し、翌年度県予算に関する要望事項を提出しており、今回は、インター周辺の土地改良事業に合わせ、スマート農業等を行う農業法人の誘致を確実なものとする、①「農業法人への支援について」、②「人材確保対策について」の要望では、地域手当の支給割合や、その超過支給を理由とする特別交付税減額措置の廃止に対し、県から国への働きかけを求めた他、③「公共交通の維持施策に係る支援体制について」として、秦野二宮とのタテのラインで結ばれる本町として、県に対して柔軟な支援体制の構築を要望しました。

これら3つの要望については県も本町との連携強化や柔軟な対応を約する回答を得ております。また、人事院勧告を踏まえ、地域手当の都道府県単位での見直しや減額措置廃止が総務省より示されました。

長年、町民の念願であった、新たな生涯学習施設を目指し、6回にわたり、のべ475人の参加を得た町民ワークショップ等を経て、中井町生涯学習施設建設基本構想並びに基本計画の案が本日よりパブリックコメントにかけられます。ワークショップ最終段階では50項目を超える町民提案を、公民館としての適合性、建築としての実現可能性などから分類され、それらが求められる機能として書き加えられました。

今後は、それらに基づき、来年度の基本設計、実施設計に向け、役場周辺拠点の再整備「比奈窪56プラン」を含めた設計者を選定するプロポーザルが開催され、「行きたくなる、居たくなる、暮らしたくなる」本町のランドマークとなる意欲的なプランが寄せられる見込みです。

町役場等の公共施設が市街化調整区域に立つという本町の土地利用の難しさか

ら、役目を終えることとなる郷土資料館ですが、収蔵品の再リスト化とデジタルアーカイブ化を実施し、11月3日に中井町デジタル郷土資料館として開設されました。

これまでの歴史や文化の分野に加え、生物多様性など本町の特質も踏まえ自然分野を用意し、誰でもどこでもいつでも入館出来る郷土資料館を拡充してまいります。合わせて、収蔵物は一部が新たな生涯学習施設に常設展示される見込みですし、分類され企画展示に活用できるよう保管し、利活用してまいります。

螺旋状の形状が目を引き、テレビなどにも取り上げられ話題にもなっている、砂口配水地の耐震補強工事が2カ年かけて行われ、今年度末に完成します。これにより、インター周辺土地区画整理事業や土地改良事業に合わせ、低区も含めた本格稼働が可能となります。合わせて、砂口配水池への送水施設である井ノ口中継ポンプ場の機械設備と電気設備の更新工事も完成いたします。

また、安全で快適な学校環境の向上のため、中村小学校南校舎屋上・外壁改修工事や井ノ口小 B 棟東側橋脚等改修工事を行い、給食センターの耐震化工事を実施したほか、井ノ口小女子更衣室に空調を整備し、教職員の働く環境の改善も図りました。

道路橋りょうにおいても、インター一色線(旧井ノ口上幹線)、広域農道小田原-中井線の舗装補修工事、境大橋の補修工事等を行ってきました。車両通行に伴う振動などが問題となっていたインター一色線(旧井ノ口上幹線)では補修の効果が現れ、周辺住民から感謝の声が寄せられています。引き続き、公共施設、社会インフラともに適時適切な長寿命化等に努めてまいります。

近隣市に昨年開設された産科医療機関と連携し、本町でも助産師・看護師のサポートを受けられる、宿泊型産後ケアを10月1日から開始しました。生後3カ月未満のお子さんがあるお母さんが、心身のケア、母乳ケアのみならず休養、リフレッシュを図れ、国及び町の補助金を活用し、1日あたり5千円のご負担で最大7日間の利用が可能です。これまで本町で培われた里都まち・なかいネウボラによる産前産後ケアに拡充を図ることができました。

本町最大のイベントである美・緑なかいフェスティバルが10月20日に開催され、中央公園に1万人のご来場がありました。わたくしが就任以来、なかいの魅力と今を伝える趣旨に加え、エコロジーの視点を取り入れており、今回は、横浜銀行の地域脱炭素プラットフォームを介して、丸紅、東洋スチレンの協力を得て、会場で利用するすべてのプラスチックのリサイクルにつなげました。引き続き、SDGsの観点から環境配慮型のイベントへと実践を重ねてまいります。

11月30日は、厳島湿生公園あかりの祭典が開かれました。町民主体でこれだけ大

きなイベントが開催できるのか！と改めて実行委員や地域自治会のご尽力に感謝する次第です。

12月1日に開催しました第七次総合計画策定に向けた町民ワークショップでは、10月に実施した「なかいの幸福度」アンケート調査を基に、ウェルビーイングの実現に向けた道すじについて意見交換を行っていただきました。現在の幸福実感は高いが、将来に対する幸福実感は少し低いというアンケート結果から、少子化や高齢化、人口減少が進展する中、これからの中井町のあり方が問われています。一般質問でも議員各位より多様な課題を取り上げていただいています。今議会でも活発な議論となりますようお願い申し上げ、行政報告といたします。

令和6年12月3日

中井町長 戸村裕司